

# 未来見つめ海外協業

国の「ものづくり日本大賞」の優秀賞に今月選ばれた小松電機産業（松江  
市乃木福富町）は、工場内を仕切る塩化ビニール製のシートシャッターで国  
内市場の3割強を占める。韓国への積極的な展開も特徴の一つだ。難しい日  
韓関係の中、信頼をどう築いてきたのか。小松昭夫社長（67）に聞いた。



「夢當はどこが評価された  
のですか」

「今までの延長線上ではなく、  
事業を転換して新しい商材を作  
り、マーケットを創造してきた。  
シートシャッターは初めは工場  
の出入り口用だったが、工場内  
の間仕切り用に進化させた。生  
産ラインの変更に対応し、機能  
的な空間をつくるという新しい  
コンセプトが受賞につながった  
と思う。」

「昨年は、韓国から部品の  
輸入を始めましたね。韓国との  
付き合いはいつから」  
「35歳で初めて旅行しました。  
それまで関心はなかった。日本  
人とわかるとタクシーから降ろ



本社に入る看板商品「門番」が出現する。社会変動に対応でき  
る製品をつくらなくては」と話す小松昭夫社長（松江市乃木福富町）

## 小松昭夫社長（67）

「企業としてのつながりは  
1990年からですね」  
国内の展示会でシートシャッ  
ターを見た韓国のベンチャー企  
業から、業務提携を申し込ま  
れ、無償で技術提供した。韓国  
の大手からも誘いがあったが、  
純然たる商売でもしろうくない  
し、もうける気はなかったのだ。  
勉強するのにちょうどいいと思  
った。相手には、反日の記念館  
によく連れて行ってもらった。

「そういう経験から見えて  
きたものは」  
日本人が韓国人を拷問する様  
子を表現した人形などを見て、  
どどんと震動して深く広く聞い  
た。歴史的に韓国人は被害者意  
識が強くあり、日本人は競争意  
識が強い。韓国は苦手だと遠ざけ  
る。技術面では、日本は教えて  
やるというスタンスで、韓国は  
仕方ないけど吸収したい。お互

小松電機産業 1973年、松江市の自  
宅納屋で創業。85年にシートシャッター  
「門番」、92年に上下水道を制御・  
監視するシステム「やくも水神」を発売  
表。2010年に韓国ソウル支社を設立  
し、法人化。年商32億円。従業員90人。

## 過去にも向き合い「和議」へ

「日韓の垣根は乗り越えら  
れませんでしたか」  
「乗り越えるんじゃない。双方  
のメンツが立つよう持つていく  
ことがポイントだ。日韓の周り  
には、米国、ロシア、中国と資  
源や産業で脅威となる国があ  
る。お互いの未来のために力を  
合わせるじゃないかと。」

「具体的には」  
いきなり提案してもダメ。相  
手が感心するくらい、何事も記  
念館に足を運んで献花し謝罪  
し、実績を積み、この日本人は  
違うと思つてもう。都合のい  
いものはもらつて、怨念や恨み  
には耳を貸さないのでは信頼さ  
れない。順手を踏まずに前向き  
な話ができない。そういう段取  
りを戦略的にやるのが経営だ。」

「理念に掲げる和議とは」  
出雲大社教の管長、千家達彦  
さんの造語です。まず共感とい  
うベースをつくり、そこに価値  
観が同じ人や色んな恩恵をもつ  
た人が集まり、和になる。自分  
は何を譲って、相手には何を譲  
つてもうか。共感、対立、統  
合、発展を繰り返すこと。いい  
ものが生まれる。少数派を否定  
しないルールを作り、意見を反  
映させて、よりよい意見に導く  
ことが大切だ。」

「今後の展望は」  
「ガレージファクトリー構  
想」を進めている。今までは完  
成品を輸出していたが、小さな  
工場を世界各地に設け、送った  
半製品を現地で完成させる。ニ  
ースがわかり、アフターサービ  
スもしやすい。韓国を皮切りに  
工場を増やしたい。それには  
は原資から約10%。何かあれば  
供給が止まってしまう。震災以  
降、リスク回避の意味でも早く  
構想を進めようと考えている。

（聞き手・小林一茂）